

❶ 基本的な考え方

シチズングループは、「市民に愛され市民に貢献する」という企業理念に根差し、創業以来常に人や環境に配慮したものづくりを心掛けてきました。2019年度は、グループの環境に関する取り組みの根幹となる「シチズングループ環境方針」と、同方針をもとにした「環境ビジョン2050」の改訂を行い、脱炭素、資源循環、安心・安全で心豊かな社会の実現に貢献することを明確にしました。また中長期的

な環境面の取り組みをより効果的なものとするを目的として、「環境目標 2030」を改訂し、SDGs達成への貢献を視野に入れた5つの目標を設定しました。これらの目標達成を通して、「サステナブルファクトリー」で生産される「サステナブルプロダクト」の創出の拡大を目指した「サステナブル経営」の実践を推進していきます。

❷ 気候変動リスクと機会への対応

シチズングループでは、バリューチェーン全体におけるグローバル環境経営を推進しています。地球規模で懸念されている気候変動による影響については、「気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD)」の提言に従い、グループの事業や財務へのインパクトが大きいリスクと機会の評価と特定をシナリオ分析により進めています。

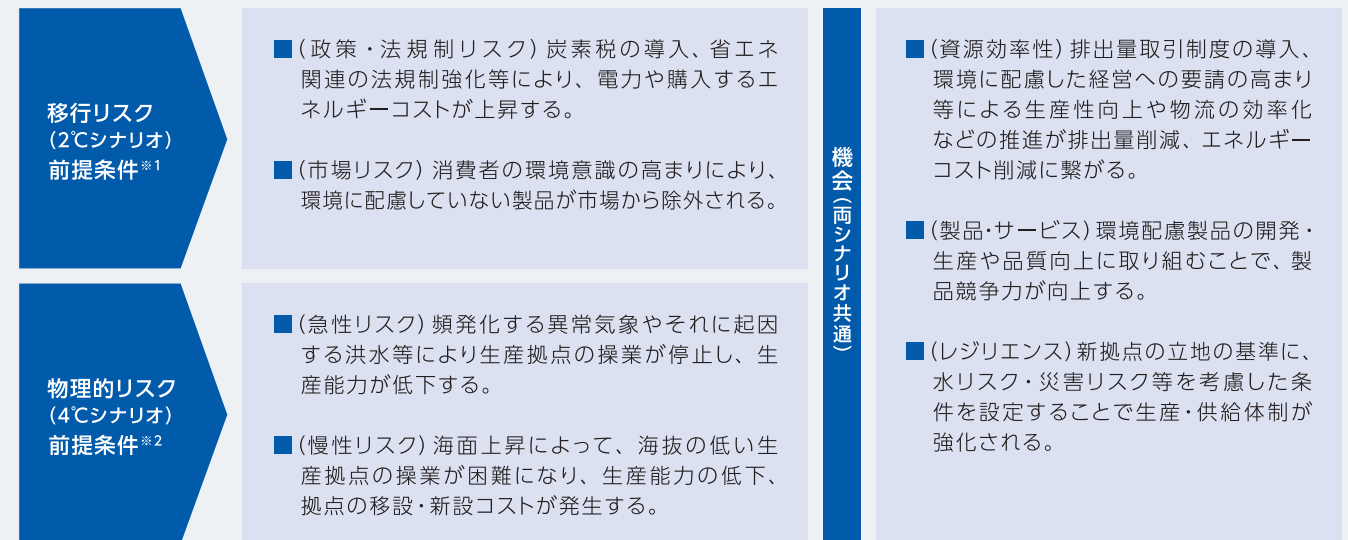
「サステナブルファクトリー」の確立に向けた、環境配慮型設備の投資についても準備を進めています。また、サプライチェーン全体での排出量の削減に向けて、シチズングループ全体でのスコープ3の算定も実施しています。

特定されたリスクへの対応としては、2℃シナリオの実現に向けて、地球温暖化の原因とされる温室効果ガスの削減を推進しています。その他の取り組みとしてはグループの各事業所での省エネ活動の実施やLED等省エネ機器や設備の導入はもとより、

機会としては、エシカルな消費が今後拡大していくことを想定し、時計事業であればエコ・ドライブに代表されるような、新たな「サステナブルプロダクト」の創出に向け、取り組みを進めています。

今後、TCFDの提言への賛同の表明、およびガバナンス、戦略、リスク管理、指標と目標の観点からの気候関連情報開示の充実を進めていきます。

■ シチズングループの財務に影響を及ぼす、気候変動関連リスク・機会



※1 重大な物理的リスクは存在しないと仮定しており、移行リスクの影響のみを考慮する。  
※2 気候変動による物理的リスクが深刻化すると仮定しており、物理的リスクの影響のみを考慮する。

❸ 制限化学物質の削減

有害な化学物質の使用の制限に関する国際的な流れが年々強まっている中、シチズングループでは積極的に化学物質の取り扱い制限を行っています。日本では、PRTR対象物質の削減のため、代替物質の使用を推進しています。2019年度は、2018年度と同等の使用量を目標としましたが、6.8%削減することができました。グループ全体では、取扱量の多かった塩化第二鉄を2018年度に全廃したことに続き、1-ブロモプロパンの代替化を進めています。2030年度には、2018年度比45%削減を目標に掲げ、引き続き削減を推進します。

また、製品含有化学物質規制対応も継続して実施しており、2019年7月のRoHS指令改正で使用が制限されたフタル酸エステル4種については、リスクの高い部品や材料の含有化学物質を調査し、お取引先とともに対応を進めています。

今後は、「サステナブルファクトリー」の確立を目指し、製品含有化学物質に関するグローバル規模での規制への対応の強化を進めていきます。また、「サステナブルプロダクト」の拡大に向け、ライフサイクルアセスメントの実施も強化していきます。制限化学物質の更なる削減に向けて、自社のみならずお取引先や顧客企業とも更に連携し、積極的な情報開示を進めます。

❹ 水リスクへの対応

水関連のリスクと機会のアセスメントは、気候変動と同様に、全社的なリスクマネジメントシステムに統合されています。2019年度も、シチズングループの各生産拠点が著しい水リスクに晒されていないことを確認していますが、地域の工業団地の管理者や行政機関と連携し、最新情報のもと活動しています。

「グループ環境目標 2030」では、2030年度に主要な生産子会社を含むグループ全体での水使用量の2018年度比35%削減という、大幅な削減目標を設定しています。2019年度は、生産拠点における水循環の高度化を推進し、高効率設備の導入による水使用量の削減を行いました。これにより、全体として2018年度比10.4%の水の使用を削減することができました。今後も引き続き水リスクの状況に注意しながら、持続可能な水資源の確保に取り組めます。

「グループ環境目標 2030」では、2030年度に主要な生産子会社を含むグループ全体での水使用量

❺ 資源の有効利用と廃棄物の削減

資源の有効利用では、工場やオフィスでの電子化やプラスチック類の分別廃棄の徹底はもとより、製品の容器包装や輸送梱包の素材や形状の見直し、取扱説明書やカタログ類の電子化、生産性・歩留り向上による原材料削減等に至るまで、企業活動のあらゆる場所で削減可能な資源を検証し、対応を続けています。

廃棄物管理においては、国内では拠点からの廃棄物が適正に処理されていることを確認するために、現地モニタリングを継続しています。このため、サーマルリサイクルも含めた再資源化率が99.4%となり、ほぼごみゼロの状態が2013年から続いている一方で、海外での再資源化率は60%程度となっています。海外では廃棄物処理・管理の状況が日本とは異なるため対策が難しいのが実情ですが、使用原材料等の削減を徹底する取り組み等を進めています。

こうした取り組みや考え方を改めて整理し、2020年4月に「シチズングループ資源循環ビジョン」を策定しました。今後はこれらのもと、「サステナブル経営」の実践に向け、更に取り組みを強化していきます。